

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>・学校経営方針に基づき、目標の達成に向けて教育活動の効果的な実施と改善を意識し、教職員の意識の向上と継続、情報共有と協働を図った。引き続き、教職員の意識改革と負担軽減、風通しのよい職場環境を目指していく。</p> <p>・保護者アンケートの結果では、子どものことを気軽に相談できると概ね肯定的に回答しているが、否定的な回答が10%あり、継続して「信頼される学校」を目指して取組を充実させる必要がある。</p> <p>・地域との強固なつながりを保つことができ、公民館を窓口とした地域連携協働活動等や運動会等の学校行事を計画的に進めることができた。次年度は、さらに開かれた学校づくりの推進に向けて、家庭・地域と連携・協力し、また、子どもの出番・役割・承認の場を数多く設定することで、「心も体も『元気』な子ども」を育成したい。</p> |
|------------------|---|

| | |
|----------|---|
| 2 学校教育目標 | <p>たたく・やさしく・たくましく</p> <p>人との関わりを大切にしながら よく遊びよく学ぶ西っ子 ～ Try & Error & Cheer ～</p> |
|----------|---|

| | |
|------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | <p>1 子どもの安心・安全が保障される学校 ～「命」が最優先～</p> <p>(1)仲間づくり・学級づくり (2)安全教育的な充実と安全な環境づくり (3)健康・体力づくりの充実</p> <p>2 個性に寄り添い、きめ細やかな指導を工夫する学校 ～一人ひとりを大切に～</p> <p>(1)特別支援教育の充実 (2)個に応じた授業の充実 (3)ICT利活用教育の充実</p> <p>3 地域と共にあり、「主体的・対話的で深い学び」を実現する学校 ～授業力アップ～</p> <p>(1)地域学校協働活動の充実 (2)「主体的・対話的で深い学び」の実現 (3)校内研究・職員研修の充実</p> |
|------------|---|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|
|---------------|------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 主な担当者 | | |
|-------------------|--|---|--|---|--|--|---|--|---|----------------------|
| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | | | |
| | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | | 学校関係者評価 | |
| ●学力の向上 | ○全職員による課題の共通理解と共通実践 (わかる授業に向けた授業改善) | ○「勉強はわかった」について肯定的に回答した児童95%以上 | ・友達と交流する活動において他者の考えに触れさせ、自分の考えを深め広げられるようにする。 ・ICTを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。 | A | ・児童の学び方の習得が前進し、ICTの効果的な活用により、個に応じた指導に結びついてきている。「勉強はわかった」について肯定的に回答した児童が98%で目標の95%以上を上回った。さらに100%を目指したい。 | A | ・学習活動で他者の考えに触れさせ、自分の考えを深め広げられるようになり、さらにICTの効果的な活用で、個に応じた指導にの充実が図れた。「勉強はわかった」について肯定的に回答した児童が100%となり目標を達成できた。 | A | ・全校児童がわかったと答えているので、今後もわかりやすい授業に取り組んでいただきたい。 ・風通しのよい職場環境により、教職員の共通理解、目標設定ができ、児童への指導、効果につながったものと思われる。 ・ICT活用効果の検証は、内容をしっかりと。 | 学力向上コーディネーター |
| | ○自分の考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童の育成 | ○「児童が自分の考えを進んで発表できるような授業づくりをすることができた」について肯定的な回答をした教員90%以上 | ・児童が自分の考えを進んで発表できるような学習活動を工夫する。 ・ICT等を活用して、自分の考えを表現する場を設定する。 | A | ○「児童が自分の考えを進んで発表できるような授業づくりをすることができた」について肯定的な回答が100%だった。DXを推進し、A評価で前期以上を目指す。 | A | ○DXを推進し、授業実践に取り組んだ結果、「児童が自分の考えを進んで発表できるような授業づくりをすることができた」について肯定的な回答で100%を達成した。 | A | ・授業の効果を上げるためにも、DXはうまく活用してもらいたい。 ・ほとんどの児童が進んで発表しており、自主的に発表できる授業ができ、今後も取り組んでいただきたい。 ・DXの効果につながる検証がわかりにくい。 | 研究主任 学力向上コーディネーター |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「友だちを大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童90%以上 | ・子ども同士の関わりを深める活動の工夫 ・自己有用感を高める「出番・役割・承認」の設定 ・たてわり活動の充実(なかよし掃除や学校行事) | A | ・「友だちを大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童は95%で、目標を達成した。そのうち13%の児童が「友だちと仲良く過ごすことができた」と回答していた。歓迎遠足などの学校行事で子ども同士の関わりを深めることができた。また、なかよし掃除は今後も継続して行っていきたい。 | A | ・「友だちを大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童は100%で、目標を達成した。150周年行事では地域にも参加してもらい、子ども達が活躍してもらった機会となった。なかよし掃除や委員会活動では、少人数ながらも一人一人が役割に責任をもって取り組んだ。 | A | ・すばらしい事です。150周年行事以外での児童の動きをよく観察できている。 ・友だちを大切に、仲良く過ごすことができており、心のやさしい人間の基本づくりができていると思う。少人数学校ではあるが、人間関係は今後役に立つことでもあり、継続をお願いしたい。 ・少人数の学校ゆえに、一人一人の役割が大切になってくると思われる。 | 特別活動部 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 | ・ふれあい道徳(学習参観)を行う。 ・定期的な情報交換による子どもの共通理解(毎週水曜日「教育相談連絡会」) ・SC、SSWと情報共有を行い、連携を図る。 ・Q-U実施と職員研修等での分析 ・年2回(6月・11月)に人権に関する啓発週間を設定する。 | B | ・週1回の教育相談連絡会や月の心の回覧などで、児童一人一人の様子について情報交換を行うと共に、必要に応じてSSWやSCと連携しながら早期対応できるような組織で対応することができた。 ・全職員でQ-Uテストの分析を行うことにより、実態把握と今後の手立てについて話し合うことができた。 ・6月に発達障害に関する啓発週間を届け、各学級で読み聞かせや学級活動などの取り組みを行うことができた。 | A | ・週1回の教育相談連絡会を「共有タイム」にし、職員全員で児童の日々の様子について情報共有を行った。これにより、職員全員の児童理解につながり、指導支援を行うことができた。 ・Q-Uテストを2回実施したことで、継続して児童の実態把握と手立てを行うことができた。 ・人権集会の実施や人権標語、人権言葉の掲示などを通して、児童の人権に対する意識を高めることができた。 | A | ・全ての児童が学校生活を楽しく過ごせることが大事であり、今後も引き続き取り組んでいただけることを望んでいる。 ・Q-Uテストの活用は大切。 ・いじめについても具体的な指導と対応をお願いする。 ・困った時に先生に話ができ、事の早期解決に役立てられていると思われる。児童の様子を敏感に感じ取れるようにしていただきたい。 | 教育相談担当 道徳教育推進教師 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれて、ありがとう」と回答した児童生徒90%以上 ●①「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上 | ・キャリアパスポートを活用し、目標や見通しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して身につけた力について振り返らせたりする。 ・総合的な学習の時間や地域人材等を活用した体験活動の充実を図る。 | B | ・全ての児童が「先生はあなたのよいところを認めてくれて、ありがとう」と回答していた。下期も引き続き児童と対話を重ねたり、交換ノートを通して児童理解に努めた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が85%であった。キャリアパスポートを活用したり、地域人材を活用した陶芸教室を行った。 | A | ・全ての児童が「先生はあなたのよいところを認めてくれて、ありがとう」と回答していた。7人中6人の児童が「とても思う」と回答しており、児童理解に努めることができていることが考えられる。 ・キャリアパスポートを活用したり、地域人材による陶芸教室を開くことができた。上期に引き続き、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が85%であった。 | A | ・教師と児童の信頼関係がよいことはgood! ・将来の夢など先生方に大いに話してほしい。 ・児童と教師との信頼関係ができているものとうかがえる。 ・全校児童が認めており、個々の対応がしっかりとできている。 ・将来の夢や目標をあまりもっていない児童が若干名いるが、家庭環境との関係も注視する必要があるのではないかと。 | 6年担任 |
| ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○「体を動かし、遊ぶことが好き」について肯定的な回答をした児童90%以上 ○「地震や火事、大雨などの災害の時に自分の命を守るための行動を知っている」について肯定的な回答をした児童90%以上 | ・交通安全教室の実施、学級活動・道徳の授業の工夫と充実 ・スポーツチャレンジの実施、外遊びの推奨。委員会で作成した掲示物等を作成し、啓発活動を行う。 ・様々な想定避難訓練及び各教科等での指導を通して命を守る行動について考える機会を年2回以上設定する。 | A | ・5月の交通安全教室で、自転車の乗り方や歩行の仕方を学んだことで、交通事故の報告は今年度はない。 ・児童アンケートでは、「体を動かして遊ぶことが好き」と答えた児童は89.6%と、目標にわずかに届かないものの、高水準である。 ・「災害時に自分の命を守る行動を知っている」と答えた児童は95.8%で、目標を達成できた。 ・スポーツチャレンジには、今年度も継続して参加している。 ・避難訓練では昨年度の反省を踏まえ、避難場所や想定を見直し、訓練内容を改善できた。 ・今後も、安全や健康を大切にしながら、児童が安心して学び生活できる学校づくりを進めていく。 | A | ・児童アンケートでは、「体を動かして遊ぶことが好き」と答えた児童は、95.8%と目標を達成することができた。 ・スポーツチャレンジは、今年度も継続して参加した。縦割り班の長縄では、県で2位になるなどの成果を残した。 ・「地震や火事、大雨などの災害の時に自分の命を守るための行動を知っている」について肯定的な回答をした児童が98%と高く、中間評価時よりも高い数値となっている。 ・2学期後半では、予告なし避難訓練(放送訓練)を行った。全体的に内容を聞き取れている児童が多く、安全意識が高まってきていると考えられる。 ・来年度も引き続き、安全に関する資質・能力を高める育成を行い、高水準の結果を維持していきたい。 | A | ・自分の身は自分で守ることが大切であり、避難訓練の在り方などもTV等の情報により変わっていることを知った。本校でも実施されているようであり、安心した。 ・事故やケガに注意して生活ができている児童が大半であり、体を動かして遊ぶこともできており、問題はないと考える。あまり好きではない児童もいるが、特性をいかに活動ができていけば問題はないと思われる。ただし、肥満との関係もあるので適度な運動は必要である。 ・命を守る行動を身につけることは必要。 ・家庭でも約束事を守ることが必要だが、家庭での取組の違いにより回答はまちまちである。 ・親と子どもの関係は家庭中心に考えていただく必要がある。 ・引き続きよろしく願います。 | 保健体育部 道徳教育推進教師 生徒指導部 | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------|------------------------------|--|---|----------|---|----------|---|----------|---|-----------------------|
| <p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p> | <p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p> | <p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</p> | <p>・定時退勤日(金曜日)の設定と徹底 ・年4回のB校時4時間授業の設定と放課後の研修等の原則禁止 ・会議資料の事前配布と提案時間の設定 ・校務端末を利用した連絡事項伝達による効率化</p> | <p>B</p> | <p>・7、8月は時間外在校時間が45時間を超える職員の割合が15%以内だった。しかし、行事の多い月や学級事務が増加する期間もあるので、継続的な業務改善が必要である。 ・業務効率化のアンケートでは89%の教員が肯定的な回答をした。教員の意識改革を図るには改善の具体策が必要である。</p> | <p>B</p> | <p>・年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上以上の職員は23%であった。職員数が少なく、校務分掌も多いので目標達成は難しい面がある。 ・業務効率化のアンケートでは100%の教員が肯定的な回答をした。今後も教員の意識改革を図る改善の具体策を取り入れていく。</p> | <p>A</p> | <p>・仕事と休みのバランスをうまく取っていくことについては、なかなか大変であると感じている。 ・職員が健康で働いてもらうためにも休養・リフレッシュの休暇取得も大事。 ・小規模校では難しい年休取得だが、学校で考えるというより市教委等が改善策を考えるべきである。 ・業務効率化は、学校だけでなく家庭の支援もなければ成り立たない。学校任せにしない子育て実現が必要。 ・働き方改革は大切であるが、児童や地域の要望にはしっかり対応していただきますように！</p> | <p>管理職</p> |
| <p>●特別支援教育の充実</p> | <p>○教員の専門性と意識の向上</p> | <p>○「特別支援に関する専門性が向上した」について肯定的な回答をした教員90%以上</p> | <p>・特別支援教育コーディネーターを中心に、個に応じた支援体制づくりを目指す。 ・UD教育の視点での教室環境づくりと授業づくりの工夫をする。UD教育に係るチェックシートを実施する。 ・保護者や関係機関、専門家との連携を強化し、研修の機会を年に2回実施する。</p> | <p>B</p> | <p>・アンケート「特別支援教育に関する専門性と意識の向上を図る」で、80%以上が「よくできた」「だいたいできた」と肯定的であった。コーディネーターを中心に個に応じた支援体制をとることで、児童の変容が見られた。また、必要に応じて、SSWやSCと連携することで個々の児童に適切な環境や支援を組織的に工夫することができた。</p> | <p>A</p> | <p>・「特別支援に関する専門性が向上した」について肯定的な回答をした教員90%以上であった。 ・SCやSSW等の関係機関と連携し、ケース会議を開いたり、研修会を実施したりすることができた。 ・コーディネーターと教育相談を中心に、毎週共有タイムの時間を設け、全職員で共通理解を図り、個に応じた支援体制づくりに努めた。 ・今後も全職員で一貫した指導や支援が行えるように研修や共有タイムを継続して実施していきたい。</p> | <p>A</p> | <p>・地域や社会に広く特別支援の動きが広がっている。更なる充実をお願いしたい。 ・特別支援教育については、充実しているなあと感じている。 ・個別に対応する難しい問題ではあるが、SCやSSW、笑顔コーディネーター等の活用で共通理解を得て、支援体制を充実させ、継続させる必要がある。地域の民生委員との関係を強化し、年に1、2度意見交換をしてみようか。他校では実施されているところもある。</p> | <p>特別支援教育コーディネーター</p> |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | | 主な担当者 |
|----------------------|---|--|--|---------|---|---------|--|---------|---|------------|
| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○地域との連携の充実 | ○地域学校協働活動の充実 | ○「地域と連携した学習」について肯定的な回答をした教員90%以上 | ・地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の実施 ・地域行事への児童の参加推奨 | B | ・教員アンケートでは89%が肯定的に回答した。地域の方の協力で、校区内の見学を行ったり、学校行事や授業に協力をしてもらったりしている。 | A | ・教員アンケートでは89%が肯定的に回答した。地域の方の協力で、学年の発達段階に応じた体験活動が実施できた。また、地域の行事に対しても児童は楽しみに参加している。 | A | ・体験活動もできており、今後とも継続されることを望みます。 ・児童や先生方(学校側)の地域への希望(連携)は過慮なく! ・花まる支援や学校行事への参加・呼びかけなどで学校、児童の様子を知ることができた。 ・陶芸、人形への絵付け、竹馬づくりなど伝統産業や遊びなど児童が地域を知るきっかけづくりになっている。 | 教頭 教務主任 |
| ○家庭との連携の充実 | ○家庭におけるオンラインゲーム・SNS等に関する「管理・確認・話し合い」の強化 | ○「家でテレビやゲーム、インターネットの約束を作り、守っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 | ・集会や長期休業前にオンラインゲーム・SNS等の指導の機会を年に2回以上設定する。 ・児童・保護者を対象とした情報モラル教室を行うことによる、よりよい情報活用について考える機会の設定 | A | ・全児童とその保護者を対象としたひまわり講座を実施し、情報モラルについて親子で考える機会を設定した。2学期に各学年の発達段階にあった情報モラル教育を各学級で実施してもらう予定である。 | A | ・長期休み前に「家でテレビやゲーム、インターネットの約束」を作り、実践する取り組みを全校で行った。その結果、85パーセントの児童から肯定的な振り返りの回答があった。今後も継続してゲームやインターネット等の指導や意識づけを行っていきたい。 | A | ・全国的に深刻な問題。連携の充実しかない。 ・学校と家庭の連携がうまくいっていることがうかがい知れた。 ・インターネットの事件が多くなってきており、必要に応じて注意喚起が必要。 | 生徒指導部 |

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

| | |
|-----------------------|--|
| <p>5 総合評価・次年度への展望</p> | <p>・今年度は、学校経営方針に基づき、目標の達成に向けて教育活動の効果的な実施と改善を意識し、教職員の意識の向上と継続、情報共有に力を入れ協働を図った。その結果、多くの項目で中間結果より上回る結果につながった。また、業務改善、教職員の働き方改革の意識向上が図られた。引き続き、教職員の意識改革と負担軽減、風通しのよい職場環境を目指していく。 ・保護者アンケートの結果では、子どものことを気軽に相談できると概ね肯定的に回答している。昨年度は否定的な回答が10%であったが、今年度は2%と減少した。さらに継続して「信頼される学校」を目指して取組を充実させていく。オンラインゲーム・SNS等については、情報モラル講座の実施と長期休業前の家庭への啓発を必ず実施しているが、家庭でゲーム等の管理・確認ができていないと回答したのは85%だった。生活リズムの乱れがやや心配される家庭もあり、朝食喫食率が89%であることを鑑みて、引き続き家庭との連携を強化する必要がある。また、防災意識の向上についても目標を達成できたので、来年度も地域の特性に応じた取組を継続して進めたい。 ・地域との強固なつながりを保つことができ、公民館を窓口とした地域連携協働活動等や運動会等の学校行事を計画的に進めることができた。教育活動への協力依頼には快諾・協力を得られている。また、児童主体の150周年記念行事にもたくさんの地域の方に来校いただき、児童の主体性を発揮できた。次年度は、さらに開かれた学校づくりの推進に向けて、家庭・地域と連携・協力し、また、子どもの出番・役割・承認の場を効果的に設定することで、「心も体も『元気』な子ども」を育成したい。</p> |
|-----------------------|--|